

NHKスペシャル ドキュメンタリードラマ 「新・幕末史 グローバル・ヒストリー」

激動の世界情勢に直面した幕末日本のヒーローたちは、どのように危機と闘い、乗り越えようとしたのか。今年度から、高校の新科目として「歴史総合」が導入されるなど、世界史と日本史をつなげて、新たな歴史を紡ぎだす「グローバル・ヒストリー」が注目を集めています。海外で日本に関する史料の発見が相次ぎ、知られざる歴史が明らかになっているのです。NHKスペシャルでは、2020年に好評を博した「戦国」に続くグローバル・ヒストリー企画の第2弾として「新・幕末史」(全2回)を放送します。

【第1集 開国 対外全面戦争の危機(仮)】 10月16日(日)後9:00~9:49

黒船が来航し、開国へと踏み切った幕末日本を揺るがせた「全面戦争の危機」に迫る。カギを握るのは、強大な軍事力や経済・マネー戦略で、世界の覇権を握ろうとしていた大英帝国。近年発掘された機密文書から、密かに、江戸や京都に侵攻する戦争シミュレーションを行っていたことがわかった。地政学上の要衝だった日本を、虎視眈々と狙うロシアやイギリス。列強の野望と対峙したのは、<最後の幕臣>と呼ばれる小栗忠順だった。下関戦争・幕長戦争・大政奉還など、幕末の動乱の中で、虚々実々の駆け引きが展開する。日本を待ち受ける運命とは。

【第2集 戊辰戦争 欧米列強の野望(仮)】 10月23日(日)後9:00~9:49

薩摩・長州を中心とする新政府と旧幕府勢力がぶつかった最大の内戦「戊辰戦争」。その背後で進められていた外国勢力による日本植民地化計画を、新発見の機密資料などから描き出す。鉄血宰相ビスマルクが率いるプロイセン(後のドイツ帝国)は、旧幕府勢力を支援。会津藩にスパイを送り込み、蝦夷を譲り受ける密約を取り交わす。英・仏・米の大国も行動を開始。小銃200丁分の威力があったガトリング砲や、鉄張りの装甲の不沈艦など、世界中から大量の武器が日本に流れ込む。外国勢力の影響で、戊辰戦争は血みどろの近代戦になっていく。



■ナビゲーター 西島秀俊さん/「大河」出演の実力派キャスト×迫力の戦闘シーン

ナビゲーターは、国際的な映画賞を次々と獲得し、世界で活躍する俳優の西島秀俊さん。番組では、海外史料等をもとに、幕末の動乱をドラマとして映像化する。大河ドラマ「青天を衝け」で演じた小栗忠順に再び挑む武田真治さん、「鎌倉殿の十三人」での熱演が話題の迫田孝也さん(西郷隆盛)、モーリー・ロバートソンさん(パークス公使)などが集結。VFX・CGを駆使した迫力の戦闘シーンを交え、列強との熾烈な攻防を描きます。